

のセンシティブティに対し、統計学的に有意なものとなっていました。つまり、母親のこれらの要素の点数が高いほど、子どもに対するセンシティブティが高くなっていったのです。逆に、母親の気分的な落ち込みや子どもから離れることに対する不安感が強いほど、子どもと遊んでいる時のセンシティブティは低くなっていました。母親の子どもと積極的に関わる度合いについては家計所得、母親の学歴、母親の気分的な落ち込み、子どもと離れることへの不安感が関係しています。

また、保育の質は母子間の相互作用における母親のセンシティブティと正の相関関係が

ありました。しかし、保育時間が長くなるほど、母親のセンシティブティは低下し、子どもとの関わりが少なくなります。注目したいのは、この保育時間と母親のセンシティブティの関連は生後 6 カ月、15 カ月、24 カ月、36 カ月のいずれの時点においても明らかだったということです。影響の程度は軽微もしくは中程度で、母親の気分的な落ち込みや子どもの気質といったものと同程度、すなわち、3 分の 1 程度の影響がみられました。

ここまで、家族の特徴が生後 15 カ月時の子どもの愛着、また、生後 3 年間の母子間の相互作用に関連していることを見てまいりました。家族の影響は、保育の影響よりも大きかったわけです。

資料4 ORCE行動測定尺度	
頻度:	
■ 積極的情動の共有	
■ 積極的なスキンシップ	
■ 発声や子どもの話に答える	
■ 子どもへ積極的に話しかける	
■ 子どもへ問いかけをする	
■ その他子どもに話しかける	
■ 認知発達の刺激/学習能力を身につけさせる	
■ 行動を促す	
■ お互いに交流のやり取りをする	
■ 否定的/拘束的行為(またはその逆)	
■ 子どもに否定的態度で話しかける(またはその逆)	
■ 子どもの観察/子どもにかまけない/変化(またはその逆)	

資料5 積極性のある保育のORCE評価	
44分間を1サイクルとし、評価は各サイクル終了時ごとに行われる	
■ 自由なコミュニケーションに対するセンシティブティ/反応速度	
■ 刺激	
■ 積極的な関心	
■ 無関心・放任	
■ 平坦な情動	
■ 干渉(36カ月目)	
■ 探究心の育成(36カ月目)	
構成要素は、保育の全体的な質を評価するための格付けとなっている	

	予知因子	サンプル	母親のセンシティブティ	子どもと積極的に関わる度合い
家族	所得	全体	** (+)	* (+)
	母親の学歴	〃	*** (+)	** (+)
	母親の気分的な落ち込み	〃	* (-)	* (-)
	夫婦関係	〃	*** (+)	n.s.
	子どもからの分離による不安	〃	** (-)	* (-)
保育	時間	全体	** (-)	** (-)
	質	観察例	* (+)	n.s.

*=p<.05 **=p<.01 ***=p<.001